

大妻女大家政 木野内清子 加藤暁子 ○河野ゆり子

目的 和服の模様における歌舞伎の服飾の影響については周知のことであるが、また、江戸時代の日常的な服飾が衣裳となっていた事実も知られている。歌舞伎の服飾から当時の和服模様の日常性を考察する。

方法 文献・浮世絵等の資料による。

結果 歌舞伎の演目には江戸時代の市井の出来事が、そのまま舞台にかけられる日常性もあり、当時の生活全般が模様の題材となっている。市井の有様を写した「世話物」「生世話物」には、小紋・縞等が多くみられるが、幕府をはばかって時代設定を移した時代物、例えば、明和8年初演の「妹背山婦女庭訓」の衣裳にみられる模様「十六むさし」は当時の遊戯道具であり、そこに日常性もみられる。